

学校保健活動における養護教諭の ICT 活用

大川 尚子 矢本 良江
(京都女子大学発達教育学部) (京都府立山城高等学校)

ICT化の時代を迎え、養護教諭は様々な情報を収集し、活用する必要に迫られている。養護教諭のICT活用の現状と課題を明らかにすることができれば、養護教諭に対する情報教育の研修内容や方法を考えるうえでの一助となる。そこで、養護教諭のICT活用の現状について調査したところ、以下の結果が得られた。

1. 健康診断、日本スポーツ振興センターは約9割、校内研修は約7割、保健教育（授業）、保健だより、児童生徒保健委員会は約5割、健康観察は約3割、健康相談は約1割の養護教諭がICTを活用していた。
2. 健康観察は高等学校の養護教諭が有意にICTを活用しており、保健教育（授業）、児童生徒保健委員会は義務教育学校の養護教諭が有意に活用していた。
3. 日本スポーツ振興センター、保健だより、児童生徒保健委員会は、10年以上勤務している養護教諭が有意に活用し、健康観察でも多く活用している傾向がみられた。
4. 健康観察は有意にICT得意群が活用し、校内研修にも多く活用している傾向がみられた。

キーワード：学校保健活動、養護教諭、ICT活用

I はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式や、新しい学校環境における教育が進められるなか、文部科学省のGIGAスクール構想（一人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する）が2020年度に前倒して完全実施が行われた。

令和5年1月「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論の取りまとめ」の別添1¹⁾において、養護教諭に担うことが求められる職務について、①救急処置（緊急事態への対応）、②健康診断、③健康観察、④疾病の管理・予防、⑤学校環境衛生管理、⑥各教科等における指導への参画、⑦心身の健康課題に関する児童生徒等への健康相談、⑧健康相談等を踏まえた保健指導、⑨保健室経

営、⑩保健組織活動の10項目があげられ、新たな養護教諭の職務を考える時代がきた。

別添2²⁾では「ICT活用の事例について」記載されており、職務遂行のためのインフラとしてのICTの積極的な活用について述べられている。業務を効率化し、児童生徒への対面での支援の時間を増やしていくことが求められている。また、コロナ禍によってGIGAスクール構想が前倒しとなったが、養護教諭もその教育全体の方向性の中で、専門性をより発揮するためにICTの活用が重要となっている。養護教諭の視点では、不登校・発達課題のある児童生徒等への支援、院内学級・自宅療養の児童生徒の支援、オンライン会議や校務支援システムの活用、健康診断・健康観察等の情報の利活用等が考えられ、「令和の日本型学校教育」³⁾の構築を目指して、今後さらに活用を進めていく必要がある。

学校では教育のICT化が進められており、第3期教育振興基本計画⁴⁾では、ICT利活用のた

めの基盤整備として、学校の ICT 環境整備を促進することが目標として位置づけられている。

養護教諭は、今までも ICT を活用した指導を行っており、保健教育でのプレゼンテーションや健康診断での事前指導、学級活動での保健教育に ICT を活用してきた⁵⁾。令和3年8月には、文部科学省より「やむを得ず学校に登校できない児童生徒等への ICT を活用した学習指導等について」が通知された⁶⁾。今後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業や出席停止等により、やむを得ず学校に登校できない児童生徒が増加することが想定された中での通知であり、感染症の流行下においても ICT を活用した指導を実施しながら教育活動を進めることが求められている⁷⁾。

ICT 化の時代を迎え、養護教諭は様々な情報を収集し、活用する必要に迫られている。養護教諭の ICT 活用の現状と課題を明らかにすることができれば、養護教諭に対する情報教育の研修内容や方法を考えるうえでの一助となる。そこで、養護教諭の ICT 活用の現状について調査を行った。

II 対象と方法

1. 対象

2023年6月～7月に開催された A 県、B 県の養護教諭研修会に参加した、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の養護教諭を対象とした。

2. 方法

「養護教諭の ICT 活用」について Google フォームを活用して無記名調査を実施し、A 県から84人、B 県から41人、計125人から回答を得た。調査項目は、対象者の属性（校種・勤務年数、ICT の得意・不得意、専用のパソコン・タブレットの有無）、保健管理（健康観察・健康診断等）、保健教育（授業・ほけんだより等）、健康相談、保健組織活動、校内研修等で ICT を活用しているか、ICT 活用のメリット等である。

3. 分析方法

統計解析は、統計処理ソフト (SPSS Statistics

24) を用い、校種別、経験別、得意不得意、県別比較は t 検定をし、有意水準は 5% 未満とした。

4. 倫理的配慮

研究に先立ち、研究の目的、概要、回答は自由であること、プライバシーの保護、データの管理は厳重に行うこと等の倫理的配慮について、研修会を開催する A 県・B 県の教育委員会に口頭と文章で説明した後、承認を得て行った。調査票に回答することをもって、協力への同意とした。調査で得た個人的データは、厳重に保管し匿名性を保持できるように記号化しデータ処理を行った。研究の終了後のデータは、個人情報外部に漏れないようにしたうえで廃棄する。

III 結果

1. 回答者の属性

(1) 校種

小学校が約5割、中学校が約3割であった(表1)。

表1 校種別回答者数

	人	%
幼稚園	0	0
小学校	62	49.6
中学校	36	28.8
高等学校	18	14.4
小・中学校	5	4.0
特別支援学校	3	2.4
その他	1	0.8
合計	125	100

(2) 勤務年数

勤務年数は10年未満とそれ以上が半々であった(表2)。

表2 勤務年数

	人	%
5年未満	30	24.0
5～10年未満	27	21.6
10～20年未満	33	26.4
20～30年未満	13	10.4
30年以上	22	17.6
合計	125	100

(3) ICTの得意・不得意

ICTが得意・不得意が半々であった(表3)。

表3 得意・不得意

	人	%
得意	3	2.4
まあ得意	59	47.2
あまり得意でない	54	43.2
得意でない	8	6.4
無回答	1	0.8
合計	125	100

(4) 専用のパソコン・タブレット

専用のパソコンがあるものは、ほぼ全員であったが、専用のタブレットは4分の3程度であった(表4)。

表4 専用のパソコン・タブレットの有無

	パソコン		タブレット	
	人	%	人	%
ある	123	98.4	93	74.4
ない	2	1.6	32	25.6
合計	125	100	125	100

(5) ICTの活用

健康診断・日本スポーツ振興センターは約9割、校内研修は約7割、保健教育(授業)、保健だより、児童生徒保健委員会は約5割の養護教諭がICTを活用していた(表5)。

表5 ICTの活用

	はい		いいえ	
	人	%	人	%
健康観察	38	30.4	87	69.6
健康診断	114	91.2	11	8.8
日本スポーツ振興センター	111	88.8	14	11.2
医療券	19	15.2	106	84.8
授業	66	52.8	59	47.2
保健だより	65	52.0	60	48.0
健康相談	15	12.0	110	88.0
児童生徒保健委員会	65	52.0	52	41.6
学校保健委員会	55	44.0	58	46.4
校内研修	90	72.0	35	28.0

n=125

(6) 健康観察

1) 健康観察の実施者

健康観察は、約3割の養護教諭がICTを活用していた(表5)。健康相談の実施者は、担任が約8割で児童生徒も約3割、保護者が約1割であった(複数回答、表6)。

表6 健康観察の実施者

	人	%
担任	102	81.6
児童生徒	34	27.2
保護者	10	8.0
その他	4	3.2

2) 健康観察にICTを導入してよかったこと

データ収集作業時間の削減、情報共有の迅速化があげられた(表7)。

表7 健康観察でのメリット

	人	%
体調不良の早期発見	15	39.5
教職員の労働時間の削減	14	36.8
出欠報告手段の変化	18	47.4
データ収集作業時間の削減	27	71.1
欠席中の体調報告	14	36.8
情報共有の迅速化	25	65.8

n=38

(7) 健康診断

1) 健康診断のICT活用の内容

健康診断は、約9割の養護教諭がICTを活用していた(表5)。その内容は、健康診断の統計処理が約9割、健康診断票の作成が約7割であった(表8)。

表8 健康診断のICT活用の内容

	人	%
健康診断票の作成	78	68.4
事前指導のための教材	48	42.1
検診の開始時間・順番確認	8	7.0
健康診断の統計処理	100	87.7

n=114

2) 健康診断に ICT を導入してよかったこと
業務負担の軽減, 経年比較がしやすくなった
があげられた (表 9)。

表 9 健康診断でのメリット

	人	%
業務負担の軽減	62	54.4
経年比較がしやすくなった	42	36.8
転記ミスの削減	27	23.7
疾患の早期発見	5	4.4
より良い事前指導	24	21.1
情報共有の迅速化	24	21.1
	n=114	

(8) 保健教育 (授業)

1) 保健教育 (授業) の時間

保健教育 (授業) は約 5 割の学校が ICT を活用していた (表 5)。その時間は特別活動の学級活動が約 6 割, 健康安全・体育的行事の健康診断が約 5 割であった (表 10)。

表 10 保健教育の時間

	人	%
体育科・保健体育科の授業	15	22.7
学級活動・ホームルーム活動	41	62.1
特別活動 健康診断	32	48.5
宿泊行事・遠足等	9	13.6
児童生徒保健委員会活動	30	45.5
クラブ部活	4	6.1
	n=66	

2) 保健教育 (授業) でのメリット

動画視聴により知識や技能が習得できる, アンケート機能が活用できるがあげられた (表 11)。

表 11 保健教育 (授業) でのメリット

	人	%
アンケート機能が活用できる	32	48.5
教材をデータ化することで振り返りをしやすい	11	16.7
学習の定着状況が分かる	0	0
動画視聴により知識や技能が習得できる	46	69.7
撮影機能により振り返り改善ができる	5	7.6
子ども自身の健康課題を可視化できる	8	12.1
	n=66	

(9) 保健だより

保健だよりは, 約 5 割の養護教諭が ICT を活用していた (表 5)。手書きは 8 人 (6.4%), パソコンは 116 人 (92.8%), 無回答 1 人 (0.8%) で作成していた。配信の方法は, 印刷・配布 110 人 (88.0%), タブレット配信 17 人 (13.6%), ホームページ配信 6 人 (4.8%) であった (複数回答)。

保健だよりでのメリットは, カラーで印刷できる, 興味を引く保健だよりになるがあげられた (表 12)

表 12 保健だよりでのメリット

	人	%
印刷の手間が省ける	17	26.2
カラーを配信できる	21	32.3
どこでも誰でも閲覧できる	15	23.1
興味を引く保健だよりになる	20	30.8
より深く理解できる	7	10.8
	n=65	

(10) 健康相談

健康相談は約 1 割の養護教諭が ICT を活用していた (表 5)。健康相談を実施しているのは養護教諭が 94 人 (75.2%), 担任が 59 人 (47.2%) であった (複数回答)。

1) 健康相談の方法

健康相談の方法は, 対面が 4 分の 3, 本人の希望に応じるが約 1 割であった (表 13)。

表 13 健康相談の方法

	人	%
対面	95	76.0
Web のアンケートフォーム	7	5.6
ビデオ会議システム	1	0.8
本人の希望に応じる	16	12.8
	n=125	

2) 健康相談でのメリット

情報共有の迅速化, 相談しやすいがあげられた (表 14)。

表14 健康相談でのメリット

	人	%
健康状態の把握がしやすい	5	33.3
欠席しがちな子どもへの支援	2	13.3
相談しやすい	7	46.7
相談内容の可視化	5	33.3
情報共有の迅速化	8	53.3
	n=15	

(11) 保健組織活動

1) 児童生徒保健委員会

児童生徒保健委員会を開催している養護教諭は、116校(70.5%)で、その内、ICTを活用している学校が65校(56.0%)で約半数であった。メリットは、子ども達の自主的な活動の促進53人(81.5%)、ホームページを活用し委員会の様子を発信できる5人(7.7%)があげられた。

2) 学校保健委員会

学校保健委員会を開催している養護教諭は105人(84.0%)であり、その内、ICTを活用している学校は55人(52.4%)であった。メリットは、保護者や学校医の参加率が上がった2人(3.6%)、Webを活用し保健委員会が開催できる6人(10.9%)、ホームページを活用し保護者も動画で委員会の様子を視聴できる1人(1.8%)があげられた。

(12) 校内研修

校内研修は約7割の養護教諭がICTを活用していた(表5)。メリットは、教員同士のコミュニケーションの円滑化26人(28.8%)、教員の資質・能力向上47人(52.0%)があげられた。

(13) 校種別比較

GIGAスクール構想が進んでいる義務教育学校と高等学校で比較したところ、健康観察は高等学校の養護教諭が有意にICTを活用しており、保健教育(授業)、児童生徒保健委員会は義務教育学校の養護教諭が有意に活用していた(表15)。

表15 校種別活用率

	義務教育	高等学校	p
健康観察	25.5	55.6	*
健康診断	91.5	88.9	
日本スポーツ振興センター	89.6	83.3	
医療券	16.0	11.1	
授業	59.4	11.1	**
保健だより	49.1	66.7	
健康相談	9.4	27.8	
児童生徒保健委員会	55.7	27.8	*
学校保健委員会	44.3	38.9	
校内研修	72.6	72.2	

p<0.05:*, p<0.01:**

(14) 経験年数別比較

経験年数が10年未満と10年以上で比較したところ、日本スポーツ振興センター、保健だより、児童生徒保健委員会は、10年以上の養護教諭が有意に活用し、健康観察でも多く活用している傾向がみられた(表16)。

表16 経験年数別比較

	義務教育	高等学校	p
健康観察	22.8	36.8	☆
健康診断	89.5	92.6	
日本スポーツ振興センター	82.5	94.1	*
医療券	19.3	11.8	
授業	54.4	51.5	
保健だより	42.1	60.3	*
健康相談	7.0	16.2	
児童生徒保健委員会	42.6	66.7	**
学校保健委員会	44.7	51.5	
校内研修	68.4	75.0	

p<0.05:*, p<0.01:**、p<0.1:☆

(15) 得意不得意別比較

ICTが「得意である」、「まあ得意である」と回答した養護教諭を得意群、「あまり得意でない」、「得意でない」を不得意群に分けて比較したところ、健康観察は有意に得意群の養護教諭が活用し、校内研修にも多く活用している傾向がみられた(表17)。

表17 得意不得意比較

	得意	不得意	p
健康観察	41.9	19.0	**
健康診断	91.9	90.5	
日本スポーツ振興センター	88.7	88.9	
医療券	14.5	15.9	
授業	58.1	47.6	
保健だより	48.4	55.6	
健康相談	12.9	11.1	
児童生徒保健委員会	56.9	54.2	
学校保健委員会	53.6	43.9	
校内研修	79.0	65.1	☆

p < 0.01 : **, p < 0.1 : ☆

(16) 県別比較

県別で比較すると、ほとんどの項目で差がみられなかったが、学校保健委員会での活用のみ有意な差がみられた(表18)。

表18 県別比較

	A県	B県	p
健康観察	24.4	33.3	
健康診断	90.2	91.7	
日本スポーツ振興センター	90.2	88.1	
医療券	14.6	15.5	
授業	51.2	53.6	
保健だより	51.2	52.4	
健康相談	9.8	13.1	
児童生徒保健委員会	47.5	59.7	
学校保健委員会	31.4	56.4	*
校内研修	75.6	70.2	

p < 0.05 : *

IV. 考察

令和3年1月の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」³⁾においても、ICTはこれからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠とされており、令和の日本型学校教育における今後の新しい動きとして、平成29・30年に告示された学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革に加え、GIGA

スクール構想が挙げられている。GIGAスクール構想により目指すべき次世代の学校・教育現場の姿として、①個別最適な学び、②協働的な学び、③教育データの利活用による効果的な学びの支援、④校務の効率化の4点が示されており、養護教諭においても、これらの教育全体の方向性の中で、その専門性をより発揮するためのICT活用が重要となると報告されている。

文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル(2023.5.8～)」⁸⁾の「4. やむを得ず学校に登校できない児童生徒に対するICTの活用等による学習指導」では、ICT端末を自宅等に持ち帰り、オンラインによる朝の会や健康観察で会話する機会を確保したり、ICT端末に学習課題等を配信することで自宅学習を促進したり、同時双方向型のウェブ会議システムを活用して、教師と自宅等をつないだ学習指導等を行ったりするなど、登校できなくても学校と自宅等をつなぐ手段を確保し、児童生徒の住んでいる地域によって差が生じることがないように、児童生徒とコミュニケーションを絶やさず学びを止めないようにする取組を行うことが重要であると述べられている。

今回、養護教諭のICT活用の現状について調査したところ、養護教諭専用のパソコンは日本スポーツ振興センターの手続きもオンライン申請となっているためほぼ全員に配布されていたが、タブレットとなると、4分の3程度となっていた。文部科学省は、教職課程で学生が小中高校の教員免許を取得する際、ICT(情報通信技術)を活用した教育に関する科目の履修を義務付け、2022年4月より入学する学生に、教職課程の中に新たな必修科目として「情報通信技術を活用した教育の理論と方法」を設け、1単位以上の取得を求めている⁹⁾。

小中学校では「GIGAスクール構想」で児童生徒に1人1台の端末配布が進んでおり、教員のICTを活用した指導力の向上が急務となっている。具体的には、端末を効果的に使った各教科の指導、デジタル教材の作成、遠隔教育の実施方法等を身につけ、児童生徒の情報活用能

力や、情報を扱う際のモラルを育てるための指導法なども学んでいるが、幼稚園・養護教諭及び栄養教諭においては、従来通りの内容とすることとなっている。

一方で、中央教育審議会答申¹⁰⁾では養護教諭は、深刻化する子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、学級担任や教科担任等と連携し、養護教諭の有する知識や技能などの専門性を保健教育に活用することがより求められているとなっており、養護教諭もタブレットを活用した保健教育をすることが求められていると考える。

健康診断・日本スポーツ振興センターは約9割、校内研修は約7割、保健教育（授業）、保健だより、児童生徒保健委員会は約5割 ICTを活用していたが、健康観察は約3割、健康相談は約1割と低率であった。

ICTを活用した健康観察により、児童生徒の健康状態を効率よく把握することができ、教員や児童生徒・保護者が入力した内容を関係職員が瞬時に情報を共有することで、朝の時間を有効に活用できるようになり、業務改善につながったという報告¹¹⁾も多く見られるようになり、ICTの特徴を活かして、児童生徒が自他の健康に興味関心をもち、自己管理能力を育成するための積極的な健康観察の取組が求められている。

また、ICTを活用した健康相談はこれからの課題であると考えている。コロナ禍では、ICTを活用した健康相談により、児童生徒が登校しない期間も遠隔で一人一人の心のケアを行うことができるようになり、オンラインやSNSで相談する方が、児童生徒にとって対面よりも相談しやすいことがあるとも報告¹¹⁾されており、今後は、教職員の共通理解をはかり、対面以外（Web、メール、電話等）の様々なチャンネルにより相談できる体制を整えることが重要であると考えている。

文部科学省の「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論の取りまとめ」の別添¹⁾においても、養護教諭による健康相談の実施方法としては、様々な方法が考えられ、従前と同様、保健室等において対面で実施することも引き続き効果的である一方

で、必ずしもそれにとられることなく、場合によってはICTを活用して、オンラインやSNSの活用等により実施する方が、児童生徒等にとって相談しやすいこともある。このため、児童生徒等の立場に立った上で、上述の相談に対応する主体も含めて、様々なチャンネルにより相談できる体制を整えることが重要であると報告している。

ICT活用の校種別比較では、健康観察は高等学校の養護教諭が有意にICTを活用しており、保健教育（授業）、児童生徒保健委員会は義務教育学校の養護教諭が有意に活用していたが、校種による養護教諭の職務の特徴に違いがあるためと考える。経験年数比較では、経験年数の少ない養護教諭が、ICTを活用していると考えていたが、実際には、日本スポーツ振興センター、保健だより、児童生徒保健委員会、健康観察等、多くの項目で経験年数の多い養護教諭が活用していた。また、ICT活用の得意不得意で差がみられると思っていたが、健康観察、校内研修には差がみられたものの、他のICT活用力にはほぼ差はみられなかった。

日本養護教諭関係団体連絡会が2021年12月実施した「養護教諭や保健室におけるパソコン環境やICTに関する調査」¹²⁾では、学校や地域により情報活用するうえでの物理的環境はさまざまであり、全体として十分には整っていないという状況が推察された。個人の状況においては、活用力や知識が不足していると回答したものが3割から4割おり、個人の力量不足を感じている養護教諭への教育や研修の機会の必要性が示されていると報告されている。

今後、新型コロナウイルス感染症が収束してもICT活用はなくならない。不登校や病気で学校に来られない子ども、周囲の目を気にして保健室に入れない子どももフォローでき、より多くの悩みをキャッチでき、保健管理業務のデジタル化にICTを活用することで、子どもと向き合い、対面で支援する時間が増えると考えている。

しかし、養護教諭のスキルや意欲に個人差があるので、研修会に参加するなど、ICT活用の促進を図る必要がある。

V. 結論

養護教諭の ICT 活用の現状について調査したところ、以下の結果が得られた。

1. 健康診断・日本スポーツ振興センターは約9割、校内研修は約7割、授業、保健日より、児童生徒保健委員会は約5割、健康観察は約3割、健康相談は約1割の養護教諭がICTを活用していた。
2. 健康観察は高等学校の養護教諭が有意にICTを活用しており、保健教育（授業）、児童生徒保健委員会は義務教育学校の養護教諭が有意に活用していた。
3. 日本スポーツ振興センター、保健日より、児童生徒保健委員会は、10年以上の養護教諭が有意に活用し、健康観察でも多く活用している傾向がみられた。
4. 健康観察は有意にICT得意群の養護教諭が活用し、校内研修にも多く活用している傾向がみられた。

文献

- 1) 文部科学省：「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論の取りまとめ」の別添1「養護教諭及び栄養教諭に求められる役割（職務の範囲）の明確化に向けて」。2023。
https://www.mext.go.jp/content/20230116-mxt_kenshoku-000026992_10.pdf (2023.11.1アクセス)
- 2) 文部科学省：「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論の取りまとめ」の別添2「ICT活用の事例について」。2023。
https://www.mext.go.jp/content/20230116-mxt_kenshoku-000026992_11.pdf (2023.11.1アクセス)
- 3) 文部科学省：中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』。2021。
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf (2023.11.1アクセス)
- 4) 文部科学省：「第3期教育振興基本計画」。2018。
https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf (2023.11.1アクセス)
- 5) 全国養護教諭連絡協議会：「GIGAスクール構

想に基づく1人1台の端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」。ヒアリング資料 養護教諭の視点から。2022。

https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt_jogai01-000017383_03.pdf (2023.11.1アクセス)

- 6) 文部科学省：やむを得ず学校に登校できない児童生徒等へのICTを活用した学習指導等について（事務連絡）。2022。
https://www.mext.go.jp/content/20220112-mxt_jogai02-000017631_000001.pdf (2023.11.1アクセス)
- 7) 井澤昌子・竹中香名子・大川尚子ほか：ICT（ZOOM）を活用したハイフレックス型模擬授業の試み—教室で授業を受けることが困難な生徒の保健科授業参加を想定して—。名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要，第15号。1671-79，2022
- 8) 文部科学省：「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2023.5.8～）」。2023。
https://www.mext.go.jp/content/20230427-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2023.11.1アクセス)
- 9) 文部科学省：「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について（通知）」。2021。
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00030.html (2023.11.1アクセス)
- 10) 文部科学省：中央教育審議会答申「「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申）。2008。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/08012506/001.pdf (2023.11.1アクセス)
- 11) 大川尚子：「養護教諭とICTの活用—前編：健康観察や健康相談での活用例やポイント」。少年写真新聞社。中学保健ニュース。2024年1月8日号。
- 12) 日本養護教諭関係団体連絡会：「養護教諭や保健室におけるパソコン環境やICTに関する調査」。2021。
[file:///C:/Users/naoko/Downloads/R40112tyoushoukokusyo%20\(1\).pdf](file:///C:/Users/naoko/Downloads/R40112tyoushoukokusyo%20(1).pdf) (2023.11.1アクセス)

謝辞

本研究の趣旨を理解し、快く調査にご協力いただきました養護教諭の先生方に心より感謝いたします。